

南信州シャインマスカット研究会の運営と、SNSによる情報共有

■背景とねらい

栽培面積が増加傾向にあるぶどう「シャインマスカット」の新規生産者に、必要とする技術情報の提供と仲間づくりを支援し、栽培経験が浅い新規生産者が安心して栽培できる環境を整えた。

■本年度の取組

1 南信州シャインマスカット研究会の運営

(1) 新規会員の勧誘

新たな新規栽培者に対し、各生産・集荷組織を通じた研究会への加入の呼びかけや、指導会等でミニチラシを配布し会員からも勧誘いただき、2名が新たに加入し、合計82名となった。

(2) 「研究会通信」による栽培技術等情報提供

気象情報と芽かきや新梢誘引、花穂整形、適期収穫など栽培管理のポイントについて、それぞれ作業適期前に情報提供を6回行った。

(3) 情報交換会の開催

令和3年度の栽培の反省と対策や小集団活動(①花穂整形の二段階処理による作業分散、②新梢管理省力化技術の検討、③幼木樹へのフラスター液剤散布による新梢の伸長抑制)の成果発表、果樹試験場研究員による生理障害対策の講演などによる研修会を3月8日に行った。参加者20名。参加者には新梢管理や生理障害に対する新たな知見が得られたなど好評だった。今後のSNS移行の説明では登録方法などへの質問が多数あり、その場で登録手続きを行うなど引き続き参加の意思が高いことが伺えた。

2 新規栽培者が相互研鑽できるSNSにおける農業者グループの育成

(1) SNSの会員制グループへの参加誘導

会員相互の情報共有手段とし、SNSを活用した情

報交換に取り組み、支援センターからの発信を増やすことと併せ、会員からの投稿を促して、SNSの利用を推進した。

(2) 小集団活動の経過発信の支援

小集団活動で取り組んだ花穂形成の当日の作業内容とその状況説明、フラスター散布前後の葉枚数や当日の様子などを、SNSを活用してリアルタイムで配信し、広く会員に情報提供を行った。

(3) タイムリーな生育状況や技術情報の発信

職員が、現地から今現在の生育や病害虫発生等の情報とその対策などを写真付きでSNSに発信したり、技術動画を管理のタイミングに合わせて掲載するなど、会員に対し、迅速に情報提供した。

■本年度の成果

1 研究会活動に対するアンケート調査の結果

研究会に参加して良かったことは、①最新技術の知見が得られた、②栽培技術が向上した、③研究会員同士で仲間づくりや情報交換ができた、などだった。また、参考になった活動は、①栽培技術研修会、②シャインマスカット通信、③SNSによる情報交換で、概ね研究会活動の評価は高かった。

2 SNS開設の結果

SNSでは、4～11月で100件を超える投稿があり、支援センターからの連絡事項や状況報告以外に、会員から写真入りで降雹の情報や、病害虫の質問が寄せられた。質問に対しては支援センターが回答したり、会員相互に鳥獣害対策の情報交換などが行われ、タイムリーな情報伝達や仲間づくりに有効であることが確認できた。

■今後の課題と対応

本研究会としての活動は終了するが、幼木管理などを中心とした技術習得はスキルアップセミナー等で対応し、また会員同士の情報交換や栽培状況、技術情報の発信、栽培への相談などは、引き続きSNSのグループを利用して行う。

(地域第三係：池浦 毅)

